

朝日新聞：総合面

- 化学物質「4-オクチルフェノール」 環境ホルモンと確認 世界2例目
- 工業用の界面活性剤やプラスチックの可塑剤に含まれる化学物質「4-オクチルフェノール」に、魚類をメス化する内分泌攪乱物質（環境ホルモン）の作用があることが環境省の調査でわかった。同省が昨年、工業用洗剤の原料になるノニルフェノールが環境ホルモンであることを世界ではじめて確認したのに続き、2番目となる。
- 14日に開かれた同省の検討会で報告した。メダカを水槽に入れて飼う実験では、1リットルあたり94マイクログラムの濃度で、オス10匹のうち5匹の精巣から卵細胞が見つかった。また、一定以上の濃度になると、メスの産卵数が少なくなり、卵の受精率が下がることもわかった。ただ、魚類への影響は1リットルあたり0.992マイクログラム以下ではなくなると考えられる。国内の河川の平均濃度は1リットルあたり0.03マイクログラムで、影響は低いと見られるという。
- 同省は人への影響を調べるためラットを使った実験をしている。ダイオキシンなどに比べ人体への蓄積性が低いことなどから、影響は低いと見ている。
- 4-オクチルフェノールは、ノニルフェノールとともに界面活性剤の原料となる。99年に国内でノニルフェノールは1万9千トン、4-オクチルフェノールは1万トン使われたと推定される。
- 日本石鹼洗剤工業会は、98年、日本石鹼洗剤組合などは99年から家庭用洗剤への使用を自粛している。日本界面活性剤工業会は、昨年からクリーニングや自動車洗淨など、廃水処理が不完全な汚泥が環境中に出ていく場合は使用を自粛するよう呼びかけている。（682字）

